



KASHIWA-NO-HA
SMART CITY



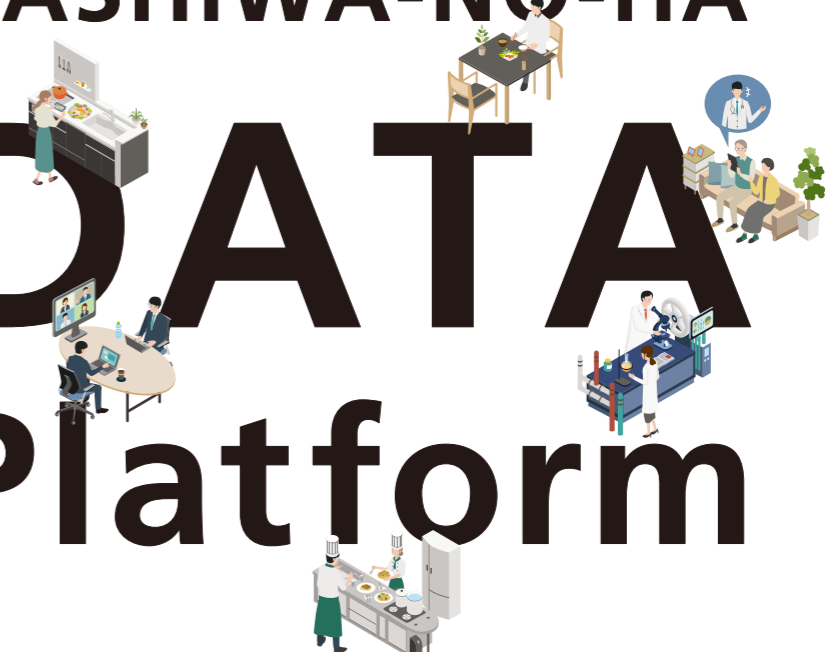
三井不動産
MITSUI FUDOSAN

UDCKTM
UDCKタウンマネジメント



KASHIWA-NO-HA

DATA
Platform



すべての人が、データを活用できる社会に向けて、
「柏の葉データプラットフォーム」を構築。



データが世界を変えていく。
「柏の葉データプラットフォーム」が、
それを可能にする。

人々のライフスタイルを、もっと豊かにする。

産業の発展を、科学技術の進歩を、これまで以上に加速させる。

その鍵は「データ活用」にある、と私たちは考えました。

限られた人や一部の企業だけでなく、

誰もがさまざまなデータを上手に利用し、安全に活用できる社会の到来は、

暮らしを変え、ビジネスを変え、世界を変える可能性にあふれています。

そこで、柏の葉スマートシティでは、街の人々や企業、研究機関や医療機関など、

すべての人がデータを安全に活用できる環境を整えました。

それが、「柏の葉データプラットフォーム」です。

- **What is KDPF?** P03
「柏の葉データプラットフォーム」とは
- **GRAND DESIGN** P05
「柏の葉データプラットフォーム」の全体像
- **Support System** P07
新しい価値創造をサポートする運営体制
- **SMART LIFE PASS** P09
KASHIWA-NO-HA
様々なサービスを提供するポータルサイト
- **Dot to Dot** P11
あらゆるデータを安全に連携できる情報基盤

What is KDPPF?

KASHIWA-NO-HA Data Platform

それは、データ利活用の場を提供するプラットフォーム。

企業間だけでデータを連携し、互いに利活用する。
これまでも行われてきた、そのデータ連携・利活用の場を、
あらゆる人々やあらゆる事業者、あらゆる機関に広げ、
誰もがデータを安全に連携・利活用できるように構築したのが、
「柏の葉データプラットフォーム」です。
それはいわば、世の中に新しい価値を創造するためのプラットフォーム。
例えば、個人データの利活用は、
一人ひとりの暮らしを豊かにするパーソナルサービスの実現につながります。
また、企業が自社では入手できなかった、さまざまなデータを利活用できる環境は、
新しいサービスや商品の開発に寄与します。
データ利活用社会は、次のステージへ。
「柏の葉データプラットフォーム」が、その未来を先駆けます。

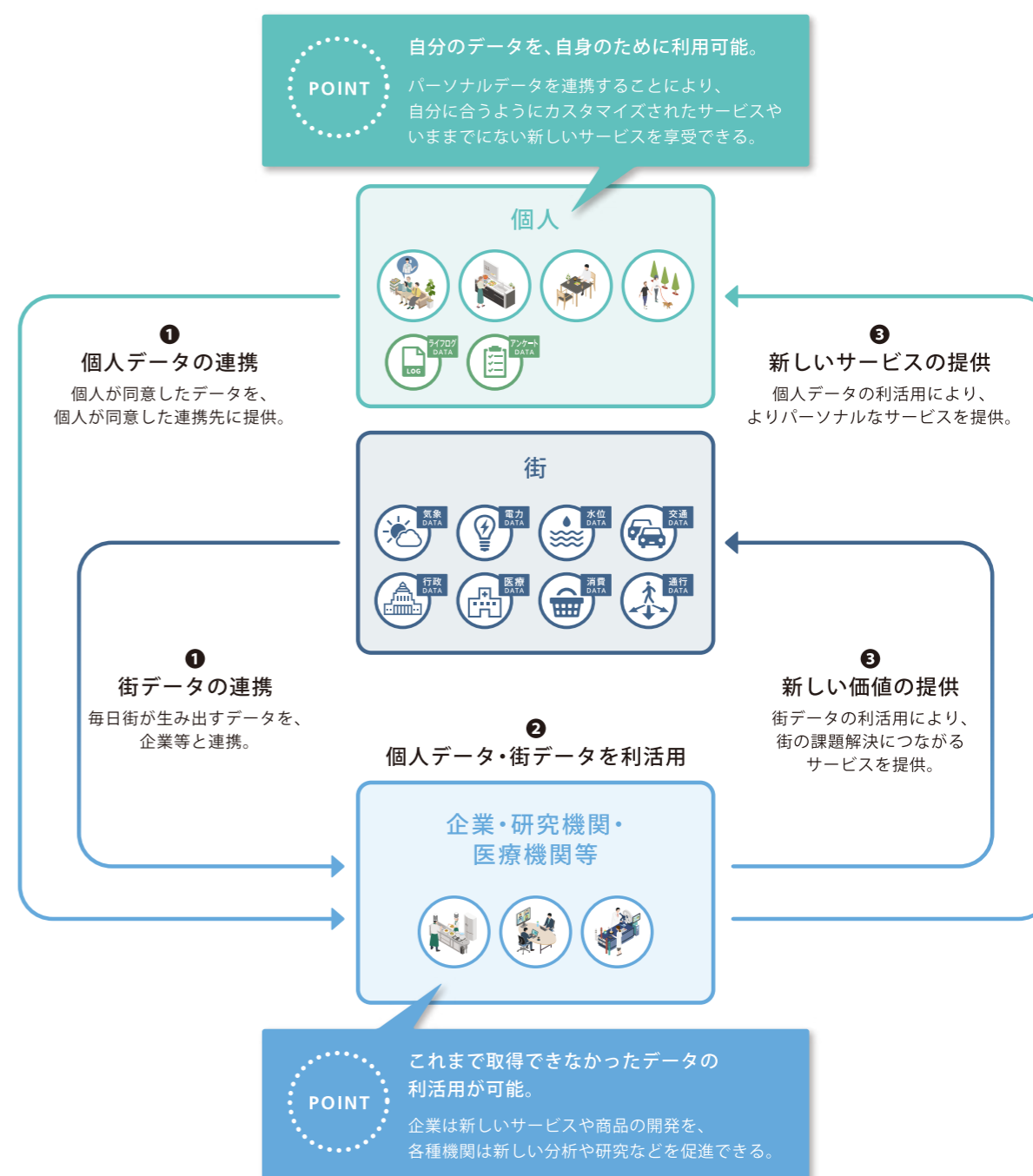


パーソナルデータを、自分のために活かせる仕組み。
データ利活用から、新しい価値が生まれる流れ。

下の図は、「柏の葉データプラットフォーム」が生み出すフローの概念図です。

- ① 毎日生まれ、更新され続ける個人データや街データの連携。
- ② 個人データや街データを、企業や各種機関が利活用。
- ③ 企業や各種機関が新しい価値・サービスを創造し、個人や街に還元。
- ④ その新しい価値・サービスから、さらに新たなデータが生まれ、連携へ。

この好循環を描き出すのが「柏の葉データプラットフォーム」です。
個人ユーザーは、パーソナルデータの連携先を自ら決定することができ、
あくまでも自身のために、自身のデータを活かせる点が大きな特徴です。
(詳細は、P11「Dot to Dot」)



GRAND DESIGN

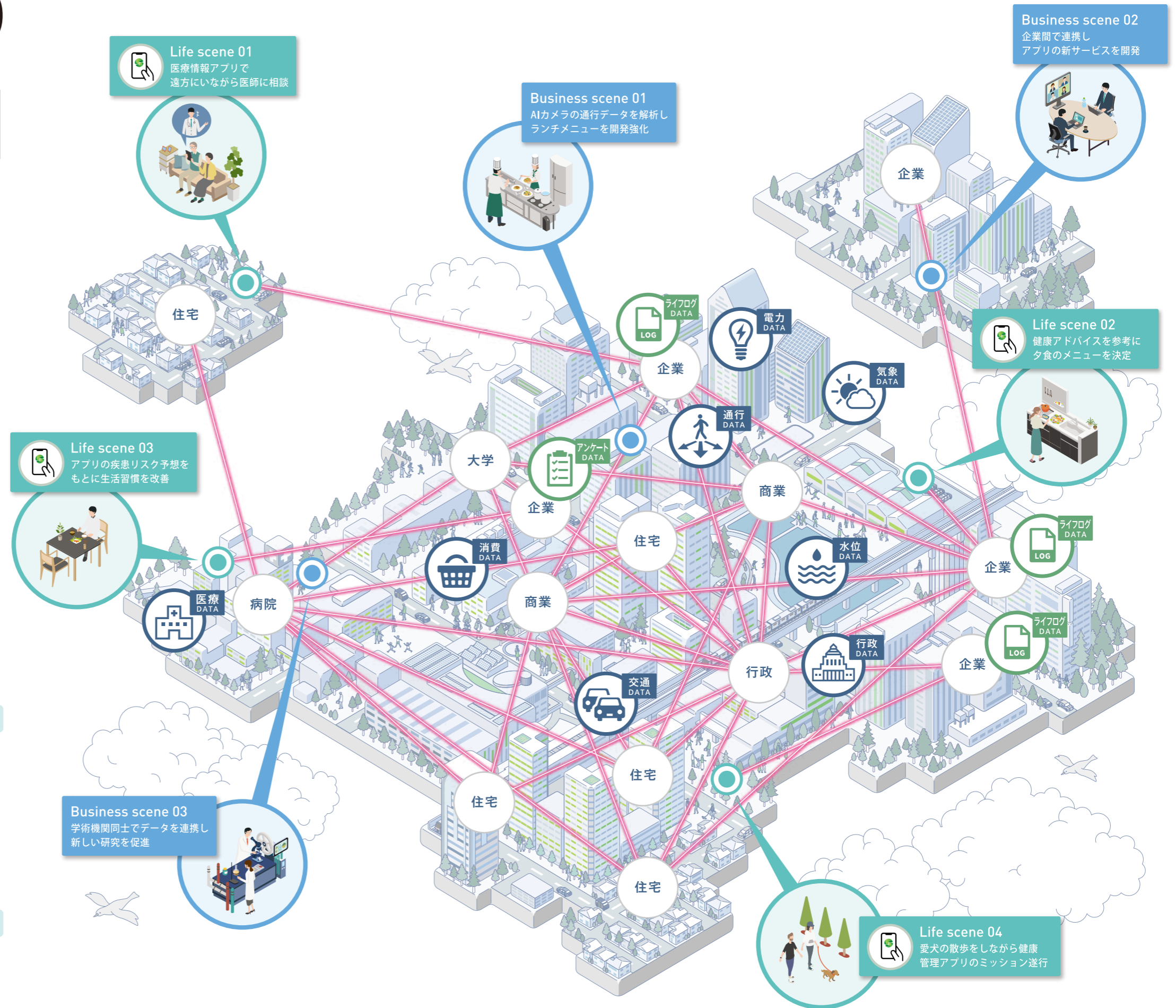
“データ利活用の場”となる 「柏の葉データプラットフォーム」 の全体像。

「柏の葉データプラットフォーム」は、
さまざまなサービスを提供するポータルサイト
「スマートライフパス柏の葉」(P09)と、
あらゆるデータを安全に連携できる情報基盤
「Dot to Dot」(P11)で構築されています。
いままでにないこの仕組みが、
街の人々により豊かなライフシーンを、
企業や各種機関に新サービスの開発や
新領域の研究を実現します。

街が生み出すデータ



人が生み出すデータ

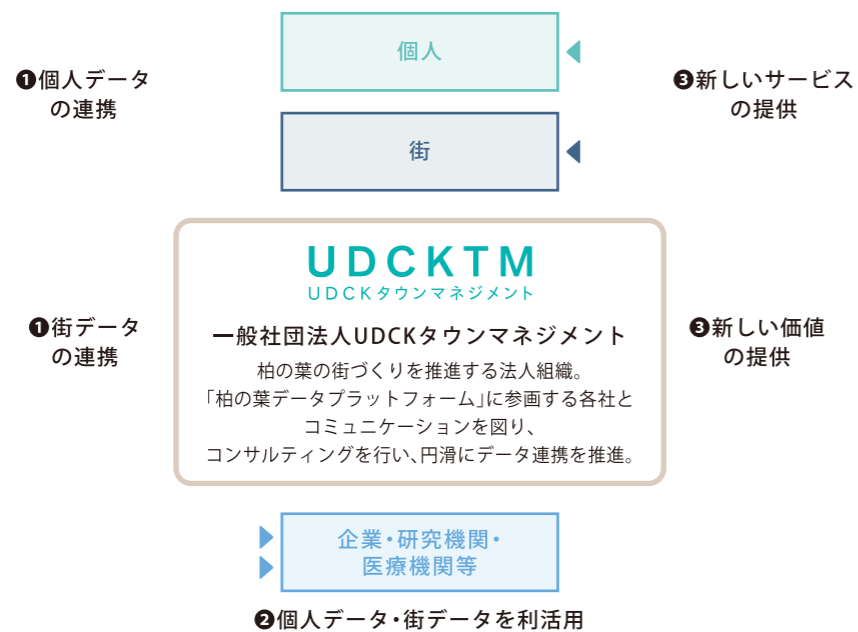




Support System

新しい価値創造をサポートする、
「柏の葉データプラットフォーム」の運営体制。

「柏の葉データプラットフォーム」では、
柏の葉の街づくりを推進する「一般社団法人UDCKタウンマネジメント」が、
公・民・学のハブとなり、街の人々や企業・各種機関を支援。
さらに、「ITコンシェルジュカウンター」や「データ倫理審査会」など、
さまざまな角度から運用体制を整え、新しい価値創造をサポートします。



新しい価値創造へと導く4つのファクター

01 一般社団法人UDCKタウンマネジメント

柏の葉の街づくりを支えてきた「一般社団法人UDCKタウンマネジメント」が、公・民・学の連携をコーディネートする役割を担い、新しい価値創造に向けたコンサルティングを行います。

02 住民・企業・大学などが参加する街づくり

地域住民や企業、大学などさまざまな声を聞き、共創しながら新しい価値創造に取り組める環境が整えられています。

03 イノベーションフィールド柏の葉

柏の葉を舞台にした実証実験プロジェクトを受け入れ、支援するプラットフォーム。「AI・IoT」と「ライフサイエンス・メディカル」にフォーカスした新製品・新サービスの創出をサポートします。

04 データ倫理審査会の設置

サービスを利用する生活者、サービスを提供する企業等、データを利活用する学術機関等が、互いに目的を共有し、利益を分かち合えるよう監督する第三者機関を設置しています。

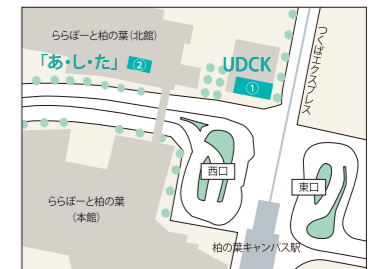
一般社団法人UDCKタウンマネジメント

柏の葉の街づくりを推進する公・民・学連携組織「柏の葉アーバンデザインセンター（UDCK）」を母体とし、公共空間の管理運営を担う法人組織を設立。「都市再生推進法人」の指定を受け、UDCK全体の活動との一体性を保ちながら、必要な独自事業を担い、柏の葉の街づくりを支えています。また、一般社団法人UDCKタウンマネジメントは、プライバシーマークを取得しています。プライバシーマーク制度は、個人情報について適切な保護措置を講ずる体制を整備している事業者等を評価し、事業活動に関してプライバシーマークの使用を認める制度です。



ITコンシェルジュカウンター

登録方法や不明点がある方は、2箇所に設置したサポートカウンターまで。提携サービスについての詳しい内容や入会方法、さらにスマートフォンの使い方など、さまざまな疑問についてご相談いただけます。



① 柏の葉アーバンデザインセンター（UDCK）
〒277-0871 千葉県柏市若柴178-4
柏の葉キャンパス148-4
東京大学柏の葉キャンパス駅前サテライト103

② まちの健康研究所「あ・し・た」
〒277-8520 千葉県柏市若柴178-4
ららぽーと柏の葉 北館3F

みんなのまちづくりスタジオ （柏の葉リビングラボ）

「世界の未来像」をつくる街、柏の葉スマートシティを推進するために、2020年にスタートした「みんなのまちづくりスタジオ」。それは、街のユーザーである生活者を中心にして企業や行政、学術機関が共創していくプラットフォームです。生活者の目線で新しいサービスや製品、プロジェクトなどを生み出すためにさまざまな実験的な手法を取り入れて運営しています。



データ倫理審査会

「柏の葉データプラットフォーム」における個人情報の取り扱いが、「個人情報保護法」などの関連法令やガイドライン及び柏の葉におけるデータ利活用の指針を審査会が自ら定めた「柏の葉データ利用倫理原則」などを遵守した上で、適切に運営されていることを審議し、助言を行う第三者機関です。





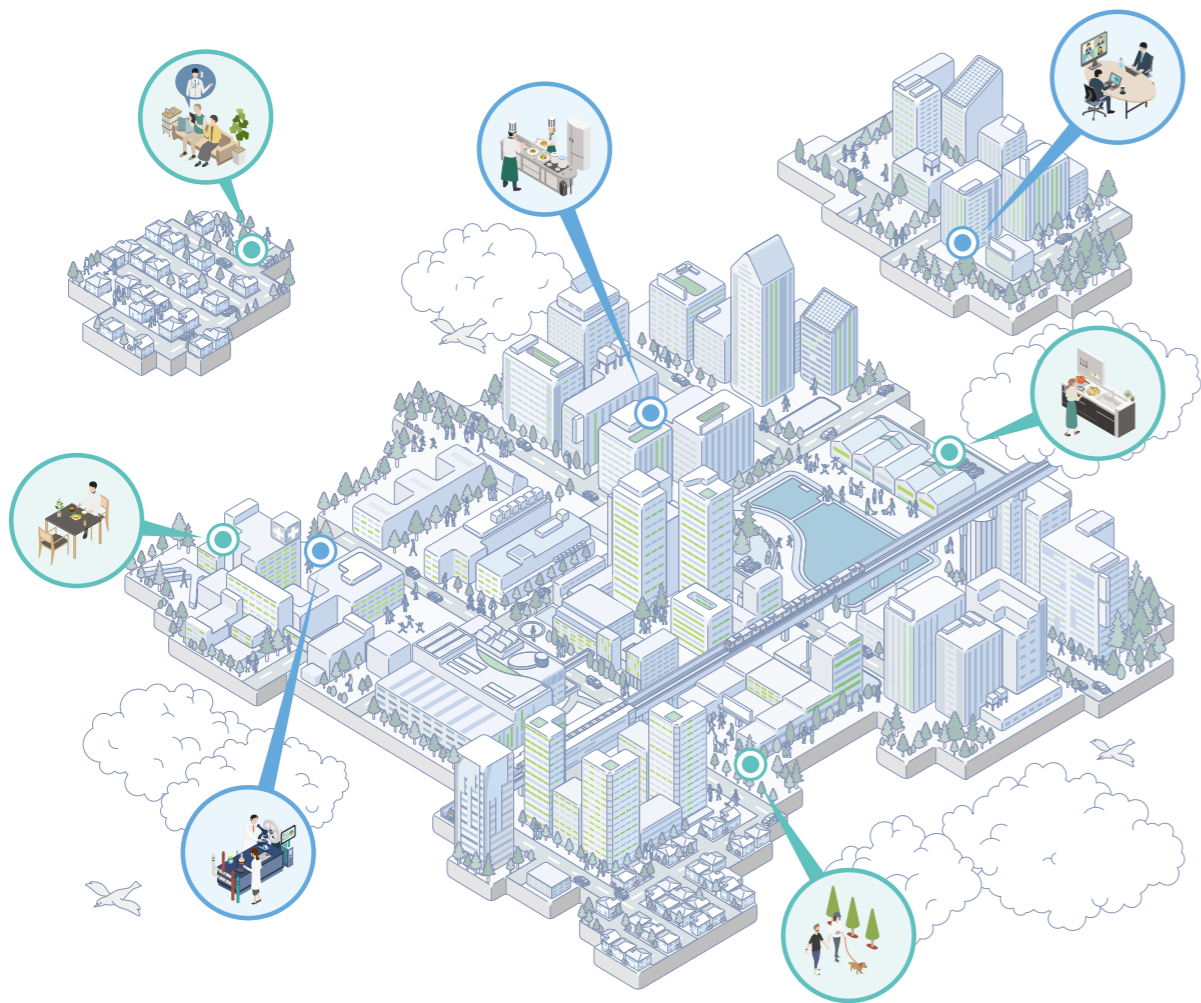
SMART LIFE PASS

KASHIWA-NO-HA

もっと豊かでスマートな暮らしをかなえる、
厳選した生活者向けサービスを提供するポータルサイト。

すべての人がデータを利活用できる社会を目指す取り組みの一環として、
柏の葉に住む方^{*1}や、柏の葉で働く方^{*2}などが利用できるポータルサイト
「スマートライフパス柏の葉」の提供を開始しました。

そこに揃えたのは、もっと健康的な生活へ、
もっと豊かな毎日へ、そしてもっとスマートなライフスタイルへと導く厳選したサービス。
「スマートライフパス柏の葉」を通じて、多彩な体験が待っています。



※1 千葉県柏市内の以下の住所にお住まいの「エリア会員」の方。[対象となる千葉県柏市内の住所] 船戸、小青田、新十倉、大青田、花野井、大室、正連寺、松葉町、松ヶ崎、大山台、高田、若柴、十倉、中十倉、柏イン
ター南、青田新田飛地、柏の葉(対象地域が変更となる際は、スマートライフパス柏の葉のサイト上でお知らせいたします)
※2 柏の葉にお勤めの方や各コミュニティ会員の方で、招待コードをご利用いただいた「e-citizen会員」の方。

「スマートライフパス柏の葉」の活用法

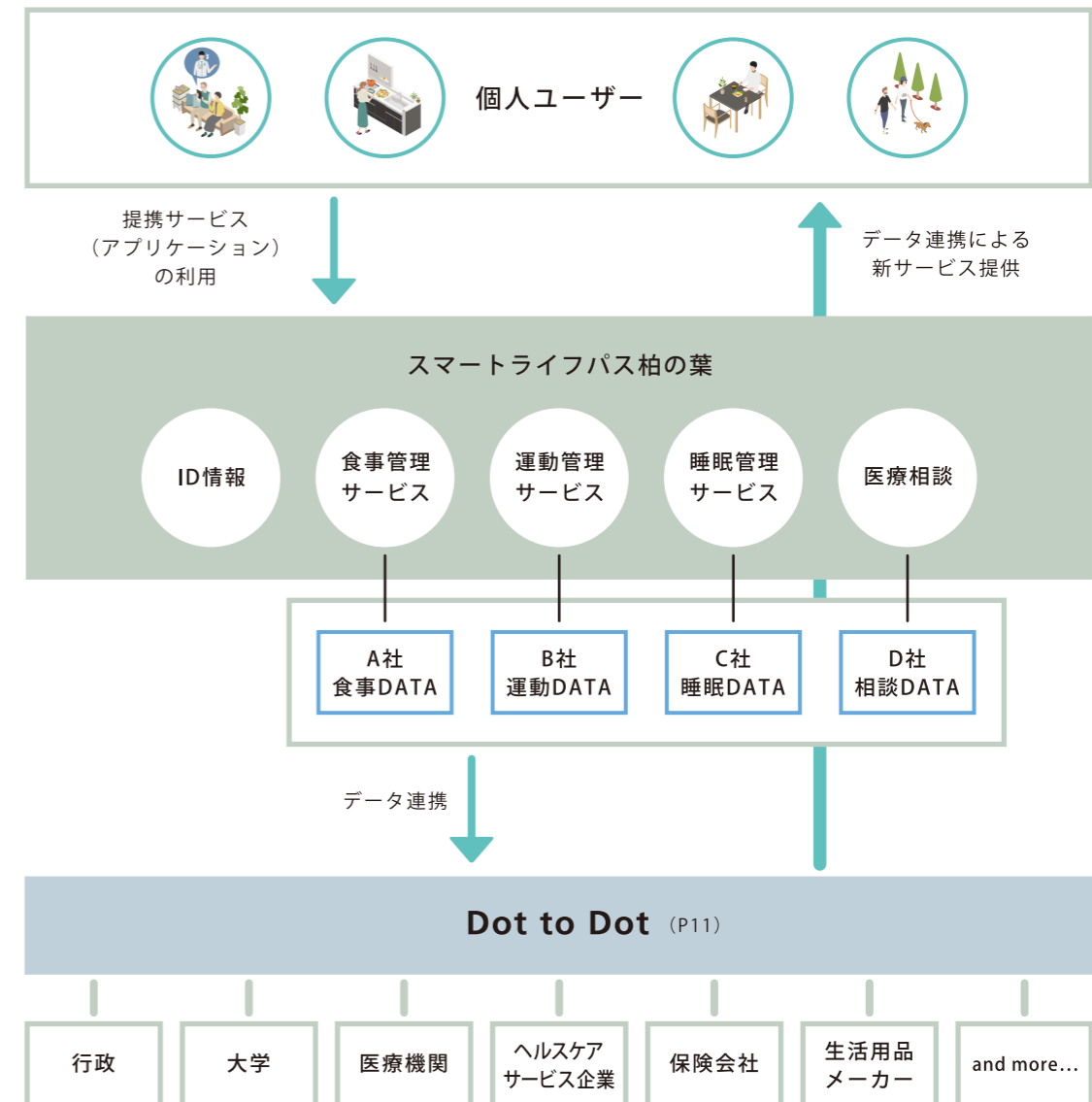
個人向け | 多彩なサービス

「スマートライフパス柏の葉」に登録することにより、多彩なサービスを利用できます。「スマートライフパス柏の葉」会員向けに用意された特典も受けられます。



企業向け | アンケート&モニター

生活者に対してモニターやアンケートの実施が可能です。「スマートライフパス柏の葉」の登録者から募集した参加者の声に触れ、新商品や新サービスの開発・改善などに活かすことができます。

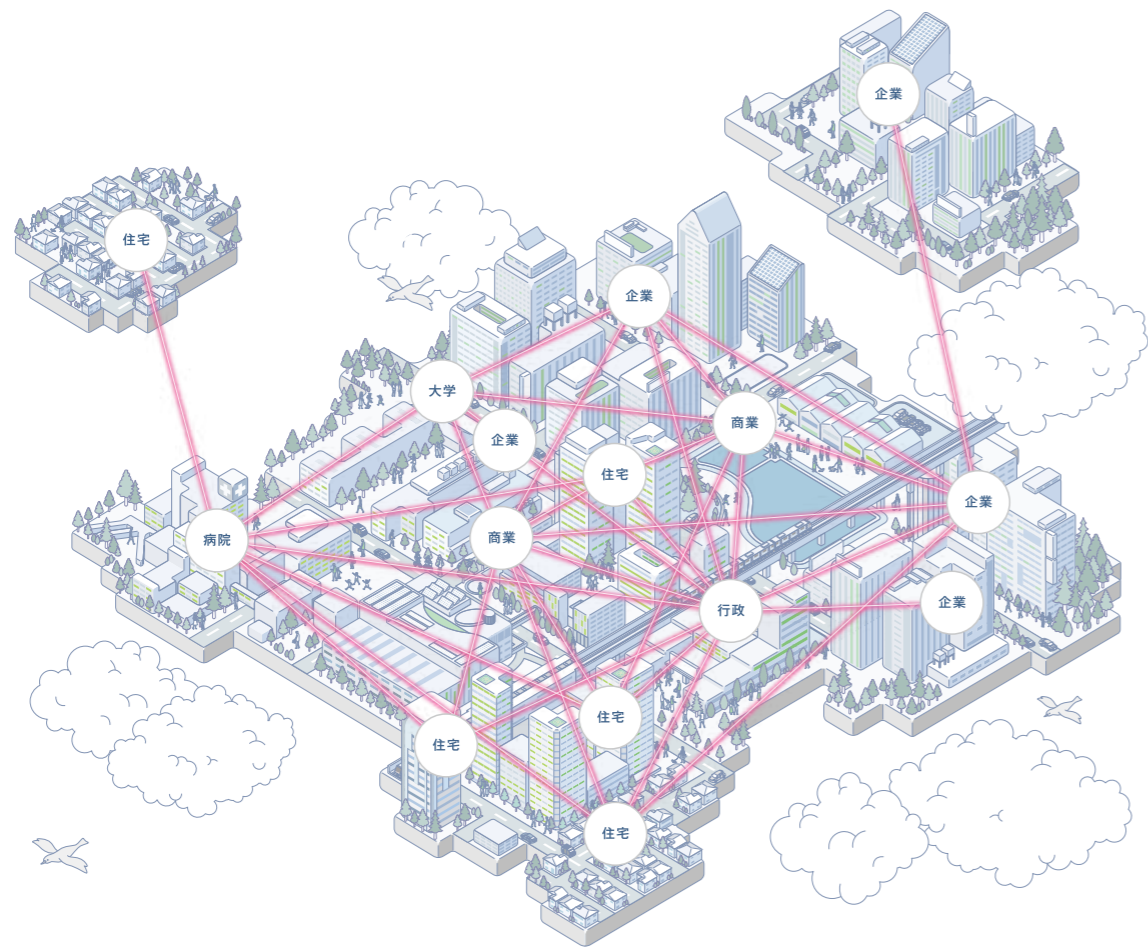




Dot to Dot

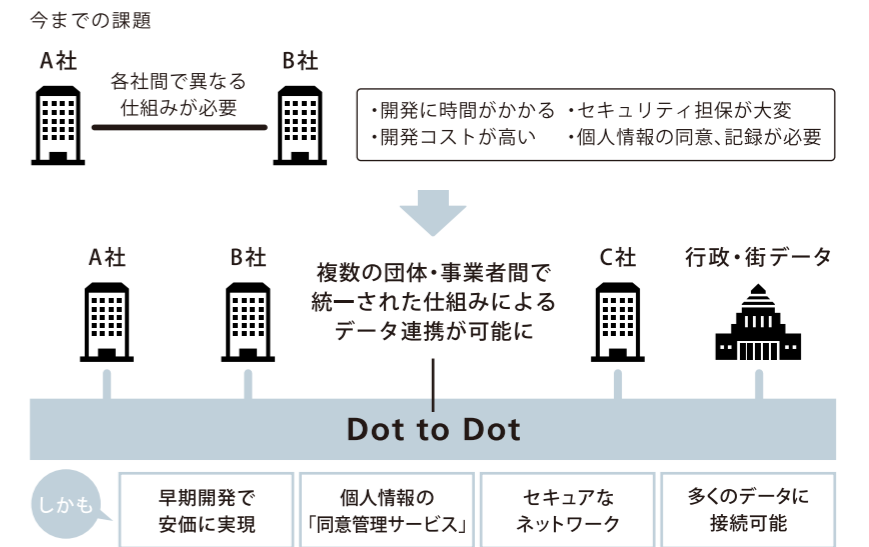
生活者が同意したデータを安全に、
事業者間で連携できるデータ連携基盤。

「Dot to Dot」は、すべての人がデータを利活用できる社会を
実現するために開発されたデータ連携基盤です。
個人の意志に基づいたパーソナルデータの連携を可能にします。



「Dot to Dot」がかなえる データ利活用社会

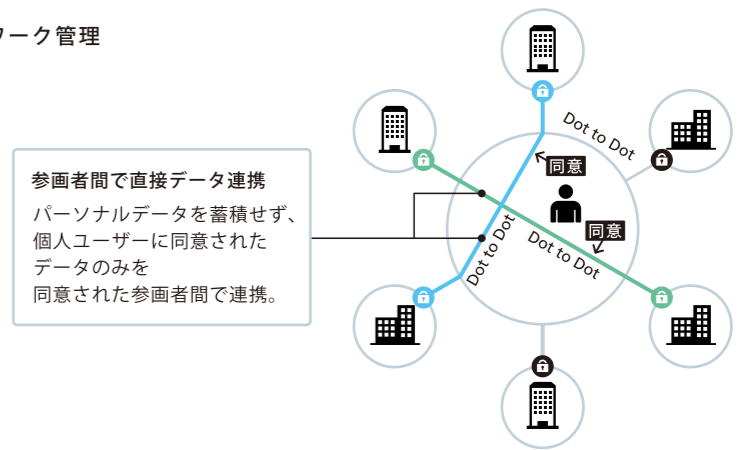
「Dot to Dot」には、ふたつの大きな特徴があります。①安全なデータ連携のためのネットワーク管理のみを「Dot to Dot」が行い、連携されるパーソナルデータを取得しない仕組み。②個人がデータの提供について事前に同意したパーソナルデータのみが連携される仕組み。こうした機能により、個人が自らの意思でデータの提供に同意し、事業者がそのデータを用いて新サービスの開発・提供を行える世界を実現します。



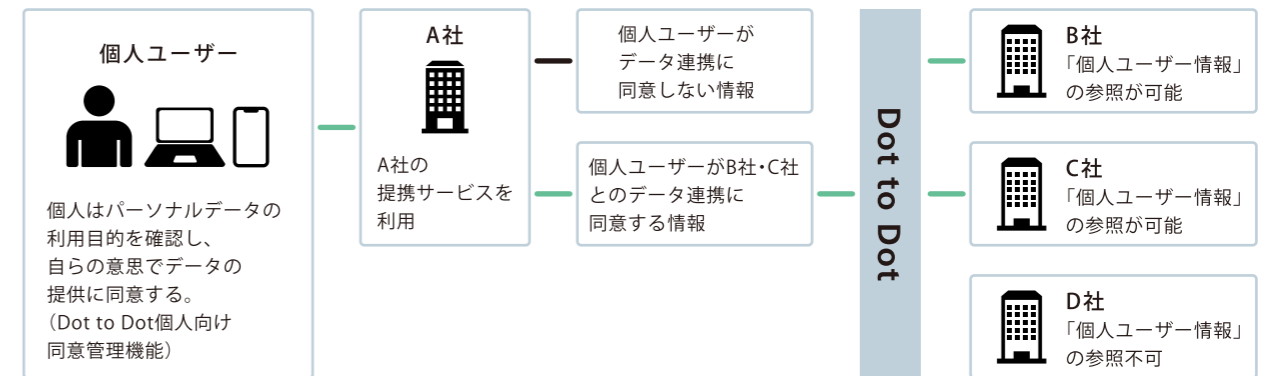
「Dot to Dot」の特徴

①安全なデータ連携を行うためのネットワーク管理

「Dot to Dot」は事業者間におけるデータ連携時に仲介し、通信の真正性やデータ送受信元の身元の保証を行います。これにより「Dot to Dot」に接続した事業者は、「Dot to Dot」にて管理された安全性の高いネットワーク環境でデータを連携できます。「Dot to Dot」は事業者間におけるデータ連携の通信ルートを確保する役割を担い、データは事業者間で直接的に連携されます。



②個人が事前に提供に同意したパーソナルデータのみを連携



「Dot to Dot」の活用法

個人向け | パーソナルデータのコントロール

自身のデータがどこで連携されているのかを同意管理画面で確認でき、いつでもコントロールが可能。同意の取り消しや同意期限の変更などを行えます。

企業向け | 開発・研究に寄与するデータ連携

データ連携を既存サービスの機能拡張や新サービスの開発、研究の促進などに活かすことができます。また、パーソナルデータ連携における確認記録義務に必要な連携実績ログデータなど、第三者提供に必要なデータをいつでも取得可能です。

Create the Future

「柏の葉データプラットフォーム」は、データ利活用社会の実現を目指して、
まだ始まったばかりの取り組みです。

「世界の未来像」をつくる街、を掲げる柏の葉スマートシティでは、
この先、すべての人が安心してデータを利活用できる社会を創出し、
利用者の方々がたくさんのメリットを感じられるように、
企業や各種機関の方々が次々と新しい価値創造を具現化できるように、
この取り組みを大きくしていきたいと思えます。

